

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議

だい 1 1 期 だい 2 年 だい 1 回 だい 2 日  
(第 1 1 期 第 2 年 第 1 回 第 2 日)

ぎじろく  
議事録

1 日時 2017 (平成 29) 年 5 月 21 日 (日) 午後 2 時 ~ 5 時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 17 人

葉 元聡、金 スンオグ、タカハシ ライゼール ラモス、幕内 嘉斐、ヘイ  
ジャフィ、スタント イルワン、ピーターソン ケリー、河 相宇、牟 鳳菊、  
ディットマー ダニエラ、韓 簫、ケゼンダア エドワード ムウインビ、  
キースタ ケーシー ジェイ、蔣 香梅、鎌田 フアチマ、ヒラチャン アスカ、  
サリ アビシエク

(2) 事務局

鈴木 室長、小川 担当課長、浅沼 担当課長、須藤 課長補佐、小沢 担当係長、  
丸橋 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 2 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ヘイ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議 2017 年度、第 1 回  
第 2 日を開催する。本日は、レ ベトさん、鈴木イエレナさん、オクサナさん、  
河本さん、ホサニさん、ヴィラマーさん、徐さん、アルナンシユさんから欠席の  
連絡が届いている。今日は欠席が多いが、17 人の出席があるので会議は成立し

ている。過半数は9人だ。それでは、まずは本日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

ヘイ委員長「今の説明にもあったように、今日は部会審議の時間が長く、部会報告もこれまでより長くとってある。自分が参加していない部会の審議についても、積極的に意見交換ができるようにということで部会報告の時間を長くするようにした。では、次に前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)では、議事の1つ目、オープン会議についてだ。事務局から資料説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問はあるか。(なし)では、続いて実行委員会で話し合ったことを報告する。実行委員会では、オープン会議の目的は『提言案について広く意見を聞くこと』でよいのではないかと考えた。この点について何か他の意見はあるか。(なし)では、決を採りたい。賛成の人は手を挙げてください。

(全員賛成)次に、広報、運営、プログラム・企画について、みなさんに希望や意見を出してもらいたい。今日の時点では、何かを決めるということではなく、まずはいろいろな希望や意見を出してもらい、それを整理したうえで、次回以降に検討していきたい。」

キースタ委員「市民祭り実行委員会でも議論したのだが、多くの人に参加してもらおうということで、オープン会議のPR方法として交流会があることをもう少し宣伝した方が参加しやすいのではないか。」

ヘイ委員長「それは交流会の時間を長くするという意味か。それともPRをするときに交流会があることをもっと積極的に宣伝するという意味か。」

キースタ委員「個人的な意見としては両方だ。」

ヘイ委員長「臨時会実行委員会では、拘束時間が長くなりすぎると逆に参加しにくくなってしまうという意見もあった。みなさん、広報についてはどうか。毎年、多くの外国人市民に来てもらいたいという意見は出るが、具体的な提案までは出てこない。臨時会実行委員会では、Facebookだったり、来期の代表者会議の募集案内の送付にオープン会議の案内を同封したり、ウエルカムセットの中に案内を入れたり、タウンニュースのような広報誌でPRしたりできないか、といった意見が出た。」

金部会長「川崎駅の広報パネルでPRできたらいいなと思う。」

葉委員「国際交流センターの日本語教室でPRしたらいいのではないか。」

ヘイ委員長「実行委員会では、他にも大学や日本語学校などにチラシを置いてもらったり、町内会をうまく活用できないかといった意見も出た。運営やプログラム・企画についてはどうか。」

葉委員「確認したいのだが、オープン会議の当日は保育サービスはあるか。」

ヘイ委員長「事務局、回答をお願いします。」

事務局高橋専門調査員「保育サービスはある。」

葉委員「去年、私の知り合いが小さな子どもを連れて参加したのだが、子どもが落ちて着なくて途中で退出した。保育サービスがあることをもう少しPRしたらどうか。」

ディットマー委員「逆に子ども連れでもいいですよということをアピールしてもいいのではないか。私たちはシングルの人だけではなくて、家族がいるような人たちにも意見を聞きたいと思っているはずだ。」

ヒラチャン委員「たしかに子ども連れの人の参加は毎年少ない気がする。」

河委員「日本語に自信がなかったり、会議の様子がわからないと不安だという人もいると思うので、オープン会議の案内のチラシに参加者の意見を載せるとよいのではないか。」

ヘイ委員長「そろそろ時間だ。今日出た意見をふまえて、次回以降また審議していきたい。それでは部会審議に移る。」

### 【情報・社会教育部会】

ピーターソン部会長「それでは、情報・社会教育部会を始める。今日は、前回会議の確認をした後に、まずは日本語学習について10分、次にオリエンテーションコースについて50分、残りの30分くらいを自由に議論する時間にして、最後に議論の整理と次回の予定の確認をしたい。まずは、前回会議の確認を事務局からお願いします。」

(事務局丸橋職員が資料1に基づき説明。)

ピーターソン部会長「それでは、まずは日本語学習について審議したい。前回の会議で識字・日本語教室の活動を説明してもらい、すでに有意義な活動をしているので、基本的には既存の取組をオリエンテーションコースなどで周知していくという方向でまとまったと思うが、他に何かそれ以上するべきことがあるか。」

サリ委員「目標がないと続かないと思うので、日本語能力検定試験のための講座があるとよい。」

ピーターソン部会長「目標をもたせるということだが、日本語能力検定試験のための講座をなぜ市がやるべきなのか。」

サリ委員「市がやるべきかどうかは違う議論になってくると思うが、そういった講座があってもよいのではないか。」

スタント委員「資料からは、すでに1,000人くらいの人が通っていることがわかる。これが多いのか、少ないのかはわからないが、日本語教室があることを知らない人もいるかもしれないので、基本的には日本語教室のPRということではよいのではないか。」

キースタ委員「川崎市の外国人の人口は約36,000人だが、全員が日本語の勉強が必要なわけではない。在留資格でいえば特別永住者や永住者、留学生などは必要なかったり、すでに通っていたりするのではないか。」

ヘイ委員長「逆に、必要だと思われるのが家族滞在や配偶者などであれば、検定試験のためではなく、いろいろな人と仲良く話したりしながら楽しく学習するような居場所を求めている人の方が多いのではないか。試験のための講座であれば、資料にあるように県レベルで実施していて、川崎市でもサンピアンで開催されている。そういう状況の中で、提言するほど強く要望できる理由がないように思う。」

サリ委員「家族滞在の人はそうかもしれないが、仕事で来た人でキャリアアップや転職のために日本語が必要だが、通う時間がなかったり、民間の語学学校だと高いという人もいる。」

ピーターソン部会長「時間になったので、日本語学習についてはひとまずここまでとする。必要な場合は、自由に議論する時間に続きをして欲しい。次はオリエンテーションコースについてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料3-2に基づき説明。)

ピーターソン部会長「資料にあるように、オリエンテーションの内容については前回、基本的な生活情報を案内するA案とウェルカムセットの内容を説明するB案という案が出ている。」

ディットマー委員「基本的な生活ルールの事例として自転車のマナーについて話が出ていたと思うが、たしかに国によって違ったりする。私もドイツにいるときは結構スピードを出したり、信号を守らなかったりすることもあるが、日本では

信号を守ったり、あまりスピードを出し過ぎないようにしている。そんなこと、  
と思うかもしれないが、やはり日本社会の中でみんな仲良く生活していくた  
めには重要なことだと思う。」

ピーターソン部会長「A案かB案のどちらがよいか、と考えるよりも、たとえば最初の1時間はウェルカムセットについて、その後の1時間は日本での基本的な生活ルールについてというように2部制で考える方がよいかも说不定。」

ヘイ委員長「A案とB案のどちらもよいと思ったが、B案は実際にウェルカムセットがあるのでイメージできるし、実施もしやすいと思うが、A案となるとどこまでカバーするのかという問題がある。ただ、あまり具体的にすぎない方がいい気がするのだが、その辺り事務局に少し意見を聞いてみたい。」

事務局小川担当課長「日本人が考えるとすると、どうしても自分たちの考え方の範囲で思いつくものになってしまう。提言に書き込むかは別として、具体的に困った経験などをあげてもらいと参考にできる。」

キースタ委員「個人的には最初はA案はいらなかつたかと思つていたが、みなさんの話を聞いて今は必要ではないかと思つている。ケリーさんの2部制というアイデアに賛成なのだが、それにくわえて一方的に説明するだけではなく、Q&Aの時間があることが重要だと思う。それと、私のイメージでは国際交流協会が実施することになると思つたのだが、国際交流協会なら普段からいろいろな相談を受けているので、それをベースに考えればよいのではないだろうか。」

ヘイ委員長「たとえば、夜中に大きな音を出したりというのは、文化によつて違ふかもしれないが、それを悪いと思つてしているわけではないと思う。そうすると、夜中に大きな音を出してもいいのかといった相談や質問は出てこない。具体的に仙台でやっている内容についてもう少し詳しく知りたい。」

ドイツマー委員「ヘイさんが言うように、国際交流センターの相談内容をベースにするだけではなくて、日本人の視点から知つておいてもらいたいことを入れる必要があると思つた。」

スタント委員「私としては、マナーだけではなくて日本の文化、たとえば寿司の食べ方や温泉の入り方などの紹介もできたらよいのではないか。」

ヘイ委員長「私も国際交流協会はいろいろなノウハウをもつていると思つたが、一方だけ仮に国際交流協会が実施するとなつたときの負担のことも心配している。できれば、国際交流協会にすべて任せてしまうのではなく、たとえばごみの出し方の講座などをするのであれば、市の担当者とも連携しながらするのがよいと思

う。」

サリ委員「あまり国際交流協会がやるということに限定しない方がいいと思う。私たちは市に提言して、それをどうやって実施するかは市が考えることだと思う。」

スタント委員「資料にもあるように、たとえば映像資料を活用するというのはどうか。必ずしも直接人が説明しなくてもよいので、実施のハードルが下がる部分もある気がする。」

ドイツマー委員「基本的な部分に関してはそれでもよいと思うが、映像だとQ&Aには対応できない。今は技術革新も進んでいるので、実際に出前しなくてもネットを使って中継することもできる。いずれにせよフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションがとれることが重要だと思う。」

キースタ委員「事務局に教えて欲しいのだが、市は国際交流協会に対して実施をして欲しいと言える立場にあるのか。」

事務局丸橋職員「国際交流センターは市の施設で、国際交流協会は指定管理者としてセンターの管理、運営を行っている。センターの事業というかたちであれば、業務内容として盛り込むこともできるかもしれないが、センターの事業ではないということになると、それは国際交流協会の判断になる。」

ヘイ委員長「具体的にどこがどうやって実施するかまでは提言しなくてもよいのか。」事務局小川担当課長「念頭にあってもよいと思うが、具体的に提言の中に書く必要はないように思う。」

ピーターソン部会長「先ほどスタントさんから動画などの映像資料もよいのでは、という意見があったと思うが、他の人はどうか。」

ヒラチャン委員「オリエンテーションの中でビデオなどを活用するのはよいと思うし、テレビ電話のようなアイデアも出ていたが、私は古い人間なのでやはり人がいて、人に直接聞ける方が安心感がある。その場では恥ずかしくて言えないけど、終わった後にちょっと話したいということもある気がする。」

ドイツマー委員「実施方法ということだと、場所や回数のことなども話に出ていたと思う。資料にある仙台の事例からもわかるように、来てもらうとなると人が集まりにくい。場所を国際交流センターと限定してしまうと、結局、近くに住んでいない人の参加は減ってしまうと思う。だから場所に関しても柔軟性をもたせた方がよい。」

サリ委員「たとえば、区ごとに実施するのがよいのではないか。」

キースタ委員「各区で定期的にやるとなると負担が大きいのではないかと思うが。み

なさんは、頻度はどう考えているのか。」

スタント委員「時期に関しては、4月、5月と9月、11月あたりが人の出入りが多いと思う。そのあたりに集中的にやるのが効率よいのではないか。」

ヘイ委員長「結局、時期や回数については、転入の多い時期を意識して開催して欲しいくらいのことしか書けないのではないか。」

ピーターソン部会長「そろそろ時間なので、少し議論を整理したい。A案とB案については、どちらか一方ではなく、両方とも必要という認識でよいか。」

キースタ委員「個人的にはB案を中心にやった方がよいと思っている。」

ヘイ委員長「私も実現可能性を考えたときに、できるならやった方がよいと思うが、どちらかというとな案を中心にするのがよい気がする。」

ディットマー委員「B案にプラスαとしたらどうか。」

スタント委員「どちらを中心にするかとか、バランスをどうするかはひとまず置いておいて、2つの目的があるということを明確にしておけばよいのではないか。」

ピーターソン部会長「では、今の段階ではあまり明確には決めないということにしておこう。それでは、ここからは自由に審議する時間をとりたい。日本語学習について、サリさんは検定試験のための講座をつくった方がよいという意見だったと思うが、同じような意見の人はどのくらいいるのか確認したい。」

ディットマー委員「日本語教室はたくさんあるのだが、もう少しレベルがどのくらいなのかと分類できるとよいのではないか。」

牟委員「識字学級は、入る前に必ず面接があって、そこでどのクラスに入るのかが決まる。宮前区の場合には、検定試験の勉強をみてるボランティアの先生が1人だけいた。それは、希望者がいたから対応してくれていた。講座のように制度化されていなくても、できる範囲で対応してくれることもある。私はシンガポールにいたときに、子どもに英語や中国語を勉強させたいと思ったが、自分でお金を出して塾に行かせるしかなかった。日本のように無料で勉強させてくれることは本当にありがたい。」

サリ委員「私が提案したかったのは、仕事で日本に来て昇給したり、転職したりするために日本語が必要な人のためだ。」

ピーターソン部会長「個人が会社の中で昇給したり、転職したりするための支援を市がするというのは違うと思う。」

サリ委員「私は無料の講座をつくって欲しいと言っているわけではない。民間だと高いので、市がもう少し安い費用で支援して欲しいということだ。そういう

サービスマンがある、川崎市のPRにもなって、川崎市に住みたいという人が増えると思う。」

ギンスタ委員「この会議の目的はたくさんの外国人に川崎市に引っ越してもらうことではない。」

サリ委員「私の周りで教育文化会館の講座に通ったが、何のためにもならないということで1か月、2か月、3か月で辞めてしまった人がたくさんいる。日本語を勉強して何かを得たい人たちにとっては、ためにならないので辞めてしまう。」

ピーターソン部会長「それは、何度も確認したように川崎市の活動の目的と違うからだ。いろいろと意見は出ているが、みなさんでどうするのか決めたい。検定試験のための講座を何らかのかたちで新しくつくることに賛成の人は手を挙げてください。(1人)すでにある取組を周知するという方向で検討していくことに賛成の人は手を挙げてください。(7人)決定した。残り時間が少なくなってきた。次回の資料のリクエストについてあげて欲しい。私からは、月ごとの転入者数がわかれば知りたい。」

スタント委員「識字学級に通っている人たちが、どうやって知ったのかはわかるか。」

事務局丸橋職員「そうした統計はとっていないと思う。」

牟委員「私は区役所で住民登録をしたときにパンフレットで紹介してもらった。」

ヘイ委員長「オリエンテーションについてだが、結局、A案の内容をどうやって検討するのか。仙台の事例はもう少し詳しく知りたい。」

ギンスタ委員「もし、オリエンテーションを実施するのが国際交流協会になるなら、参考人として来てもらって、私たちのアイデアにアドバイスをもらったかどうか。」

ヘイ委員長「今の段階で『できない』と言われてしまうと、提言にするのが難しくなってしまう。」

ピーターソン部会長「それでは、そろそろ時間なので今日の部会はここまでとする。」

#### 【地域生活部会】

金部会長「それでは、地域生活部会をはじめます。まずは、前回会議の内容について事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

金部会長「それでは、今日のテーマは防災・災害だ。資料の説明を事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料4に基づき説明。)

金部会長「それでは、事前送付とは別にいろいろと資料を用意してもらっているの  
それを見よう。10分ほど時間をとる。」

( 実際に資料を手にとって閲覧 )

金部会長「では、資料も見たので審議に入りたい。何か質問や意見はあるか。」

ケゼングア副委員長「いろいろと資料を見て、災害が起きる前の情報やパンフレットは  
多言語もあり充実しているという印象をもった。逆に、起きた後の対策につい  
てまだ課題があるように思う。」

葉委員「紙媒体の冊子はもちろん必要だと思うが、多言語版のアニメをつくって  
Youtubeなどであげたらもっと気軽に見られるのではないかと思う。」

鎌田委員「防災訓練にあまり外国人が参加していないのが気になる。実際に経験して  
いないと資料を読んでも伝わらない部分があるので、その辺は映像があるとよ  
いのではないか。それと、防災マップはあるがいつも持ち歩いているわけでは  
ない。携帯のアプリでわかるとよいと思う。」

韓委員「すでにあるかわからないが、災害が起きたときのための外国人ボランティアの  
事前登録制度はあるか。」

蔣委員「私は国際交流協会のボランティアに登録しているのだが、協会からもし災害  
が起きたときに支援に協力してもらえますかという確認の連絡があった。」

タカハシ委員「私のところにも同じはがきが来た。」

金部会長「この間、部会のメーリングリストをつくって意見交換をしてみたが、会議の  
場で共有して、審議するというのがメーリングリストを活用する際の約束だ。  
ライゼールさんがいろいろと提案をしてくれているので、あらためて説明をお  
願ひする。」

タカハシ委員「いくつかメーリングリストでアイデアを出させていただいた。1つ目は、  
『川崎市に大地震が起きた日』という冊子があるのだが、そのQ&Aの多言語  
化だ。冊子すべてを多言語化するのはお金がかかると思うが、Q&Aだけでも  
役立つと思う。2つ目は、避難所での簡単な会話集だ。多言語でなくても、や  
さしい日本語でもいいかもしれない。3つ目は、これも避難所のことだが、  
外国人も支援してもらっただけではなく、できることは手伝いたいという気持ち  
があるので、何をしたらいいのかのリストのようなものがあるとよい。避難所での  
注意事項もあるとよい。4つ目に、被災後に申請しなければいけないものの  
準備について。資料で準備してもらってわかったように、制度は非常に多いの

で全部の申請書を多言語化したりするのは現実的ではない。ただ、り災証明書交付願をやさしい日本語か多言語化するのは必要な気がする。」

金部会長「いろいろなアイデアを出してもらったが、少しだけ補足したい。『川崎市に大地震が起きた日』のQ&Aの多言語化というアイデアがあったが、CLAIRのウェブサイトにも外国人が疑問に思ったり、不安になったりすることについての多言語のQ&Aのようなものがある。こうしたものを活用するのもよいかもしれない。」

ケゼンダ副委員長「いろいろな提案があるが、基本的には全部賛成だ。とくにいいなと思ったのは、避難所にいるときに何ができるのかというリストだ。たぶん、自分も含めて外国人のおおくとって、避難所は自分が困っているときに助けてもらう場所というイメージが強いと思う。けれど、実際にはみんなでお互いに助け合うことが避難所では必要だ。ただ助けてもらうだけではなくて、できることは一緒に協力することが大切だ。たとえば、私だったら通訳ができますとか、受付業務だったり、炊き出しだったり、掃除だったりできる。その意味で、外国人市民にも何をすればいいのかがわかるのはよいことだと思う。」

事務局高橋専門調査員「確認を含めて少し聞きたいのだが、それは外国人市民のためのリストが欲しいということか。というのは、おそらく避難所の運営はいろいろな課題が出てくると思うので、結局、日本人の場合でも『何かできることはありますか、手伝うことはありますか』とか『手伝いましょうか』ということ、コミュニケーションをとりながらすると思う。外国人市民のための何をしたらよいかというリストを事前に準備というのはあまり向かないように思う。それよりも、運営の中心になる人たちが外国人市民の人がどんなことができたり、手伝ってもらえるのかということ把握していると助かると思うので、受付時に何ができたり、手伝えるのかを書く方がよいかもしれない。」

ケゼンダ副委員長「たしかに、今の話を聞いて、外国人がリストを見て判断するよりも、受付時にできることを申告か登録をして、それをもとに声をかけてもらった方がよい気がする。参考資料の中にも受付カードの中に話せる言語の項目があったが、ただ言語を聞くだけではなくて、それこそ通訳だったり、何ができるのかを書いてもらうとよいと思う。」

金部会長「確認しておく、資料も見てもらったように、現状では外国人市民への対応や配慮に関する具体的なことが川崎市の避難所運営マニュアルの中には書かれていない。それと、エドワードさんやライゼールさんが言ったように、外国人

市民への対応ということだけではなくて、一緒に避難所を運営するためのノウハウのようなものをマニュアルに入れておくことも重要だろう。ほかに、外国人市民も含めた防災訓練をもう少し全市的にできるような仕組みもあった方がよい。」

事務局高橋専門調査員「いくつか気になったので、少し考えて欲しい。防災訓練についてだが、たしかに参加者が増えることはよいことだと思う。一方で、日本人でも防災訓練に参加している人は多くないし、そう考えると調査結果の14パーセントという数字は必ずしも低いとは言えない部分もある。増えるのはよいことだが、具体的にどうすれば増えるのか考えて欲しい。それと、映像をつくってYoutubeにあげるというアイデアがあったが、実際にどのような必要性や効果があるのか。たとえば、川崎市のものではないが、すでに仙台市がYoutubeに多言語の動画をあげている。結局、紙であろうが動画であろうが、関心をもって情報を探そうとしなければ見つけることはできない。動画にすればみんなが見るようになるとは、そんなに単純に言えないと思う。」

葉委員「たしかに、つくって見ないと何とも言えない部分もある。それでも、消極的な理由になってしまうが、紙媒体だけではなく動画があってもよいと思う。」

河委員「仙台や熊本の事例を見ても、災害が起きた後に課題が多いように感じる。」

葉委員「災害が起きたとき、とくに緊急速報メールや避難所情報の多言語化という話だったと思うが、交流センターの掲示板にもポスターが貼ってあるSafety tipsというアプリがあるのだが、このアプリは多言語化にも対応している。このアプリで十分対応できているのではないか。」

事務局高橋専門調査員「Safety tipsの活用というのはよいと思うが、川崎市には川崎市の防災アプリというものがある。これについては、現状では日本語しか対応していない。提言ということを考えると、まずは市の枠組みでできることというのがあろうと思うが、それについてはどのように考えるのか。」

金部会長「では、次回の会議までに川崎の防災アプリを見てくることを宿題としたい。

残りの時間で少し医療・病院についても話し合いをしたい。何か意見はあるか。」

ケゼンガ副委員長「これまでいろいろと審議してきたが、医療・病院に関して川崎市のウェブサイトなどオンラインでは情報は豊富だと思う。それに対して、この前、区役所に行ってみたのだが区役所の外国人市民情報コーナーには何も情報がなかった。オンラインだけではなく、紙媒体の情報がもっと必要なのではないか。」

河委員「紙媒体の資料が必要ということもそうかもしれないが、制度が複雑で難しかったりするとたんに情報を提供するだけではなく、それを説明するような機会も必要ではないかと思う。」

葉委員「MIC かながわの医療通訳についてなのだが、私は実際に妻が合計で7回くらい利用したことがあるのだが、日本語がまったくできない人には利用しづらい制度だ。私の場合は、病院で紹介してもらったが、それまでは制度があることを知らなかった。病院の中にもポスターが貼ってあったりするわけではない。それに、病院のスタッフは外国語が話せない。日本語が話せなければ予約もできない。日本語ができない人の立場に立って考えるべきだと思う。」

金部会長「もちろん、不便に感じることはあると思うが、日本語ができない人が来たときの対応というのは、何かしら態勢づくりはしているのではないかと思う。事務局からは何かあるか。」

事務局高橋専門調査員「もちろん、日本語ができない人の立場になって考えてみるということは大切だと思う。ただ、この会議はみなさんが困っていることを一方的に要望する場ではない。提言まで結びつけるには、制度や仕組みを理解することも大切だ。医療通訳の制度に課題や改善点がないとは思わないが、みなさん利用者の側からの意見だけではなく、制度を運用する側の立場も理解する必要があると思う。現状では、この制度の費用は通訳が必要な外国人市民よりも、病院や行政が多く負担している。ボランティアへの報酬も、1回あたり3時間で3,240円ととても安い金額だ。それと、利用実績は増えているので、市や病院としても利用に消極的なわけではない。個人が申し込めないのは不便だと思うが、一方で個人が自由に申し込みできると通訳者が不足してしまうのではないかとも思う。単純に考えて利用希望者が2倍になったら、通訳も2倍必要だ。そうした事情もふまえたうえで審議してもらおうとよいのではないかと思う。」

金部会長「今の事務局からの指摘もふまえたうえで、次回以降、引き続き審議していきたい。そろそろ時間だが、何かあるか。(なし)それでは、今日の部会はこれで終わりにする。」

## 【全体会】

ヘイ委員長「それでは、全体会を再開する。まずは部会報告を情報・社会教育部会からお願ひする。」

ピーターソン部会長「今日は前回と同じく日本語学習とオリエンテーションコースの2つのテーマについて審議した。日本語学習については、大人向けの日本語学習のコースに何かの目的をもたせた方がいいのではないかという提案があったが意見がわかれた。就労している人がキャリアアップや転職をするためには、検定や資格がないとなかなか難しいということから提案があったが、そのような支援を川崎市がするべきなのかというところで意見がわかれ、やはり提言にするのは違うという意見が多かった。結局、日本語学習については、すでに川崎市で取り組んでいる活動をオリエンテーションコースなどでも積極的にPRするという方向で提言に入れようということに決まった。オリエンテーションコースについては、資料にあるように基本的な生活の情報を案内するA案とウェルカムセットの内容を案内するB案、という2つの案を中心に検討した。今日の審議では、せっきやくウェルカムセットがあるのだからそれを活用するというので、B案を中心にしつつ、基本的な生活に関することについてもオリエンテーションの中に入れて方がいいという方向にまとまった。ただ、引き続き審議をして内容を詰めていきたい。次回は、情報も含めてこれまでの振り返りをする予定だ。」

ヘイ委員長「何か質問や意見はあるか。」

ケゼンガ副委員長「地域生活部会で医療・病院について審議しているのだが、川崎市はホームページにはいろいろと情報があるのだが、紙の情報ほとんどなく、ウェルカムセットにも入っていない。ウェルカムセットを中心としたオリエンテーションということだったが、医療・病院についてはどう考えているか。課題を共有して、一緒に考えてもよいのではと思う。」

ピーターソン部会長「地域生活部会としては、具体的にはどのようなイメージなのか。」

ケゼンガ副委員長「たとえば、川崎市で多言語対応している病院などだが、まだ具体的には深まっていない。」

河委員「オリエンテーションはどこが主催するのか。仙台の場合だと仙台観光国際協会がやっているようだが。」

ピーターソン部会長「私たちの会議としては、直接、川崎市国際交流協会にやって欲しいとまでは言わないと思う。提言では、あくまでも川崎市に対して、外国人市民に向けたオリエンテーションがあるとよいというところまでだと思う。どうやって実施するかは、市に委ねる部分があった方がいいと思う。ただ、結果的には、国際交流協会にお願いすることになる気はする。」

ヘイ委員長「では、次に地域生活部会からの報告をお願いします。」

金部会長「今日は防災・災害について審議した。まず、資料にもある『自助』『共助』『公助』という考え方について確認して、共有した。そのうえで、これも資料にあるように災害が『起きる前』『起きたとき』『起きた後』というかたちでわけて審議した。『起きる前』の取組に関しては多言語資料や防災訓練などすでに取組があり、一定の評価ができるのではないかということになったので、『起きたとき』と『起きた後』を中心に審議した。意見としては、たとえば避難所での外国人対応のためのQ&Aの作成や外国人自身も避難所の運営に参加できるようにするための仕組みづくりなどが出た。他には、被災しているいろいろな支援を受ける際に一番よく使うことになる『り災証明書』を発行してもらうための書類が日本語のものしかなく、難しいとった意見もあった。それと、短い時間だったが医療・病院についても少し審議した。先ほどエドワードさんからあったように、情報・社会教育部会とも連携して考えていければと思う。」

ヘイ委員長「何か質問や意見はあるか。」

サリ委員「り災証明書は、どういった場合に出るのか。」

金部会長「自分が住んでいる家や建物の被害を証明する書類だ。」

サリ委員「自分で記入するのか。」

金部会長「記入するのは調査員だ。私たちがするのは、り災証明書を出して欲しいという申請書の提出だ。」

ドイツマー委員「質問というよりは意見だが、先ほど提案にあったように医療・病院については、こういった部会報告の時間を活用して、しっかりと情報共有して、意見交換していくのに賛成だ。」

ヘイ委員長「では、次は実行委員会報告をニューズレター編集委員会からお願いします。」

葉委員「今日はNo. 61の記事と担当者を決める予定だったが、欠席者が多かったので次回に持ち越しになった。」

ヘイ委員長「続いて、市民祭り実行委員会の報告をお願いします。」

キースタ委員「今日は実行委員長がいなかったので、私が代わりに報告する。今日は、市民祭りやインターナショナル・フェスティバルの目的について確認した。参加する目的としては、代表者会議のことやとくにオープン会議のPRといった部分が大きいということになった。それをふまえて、これまでは子ども向けの企画が多かったが、子どもを連れてきた大人向けにもしっかりとPRをしなければいけないのではないかということになった。」

へい いんちよう 「きょうのぎじは いじょうだ。さいごに、じむきょくから じむれんらくをおねがする。」

【じむれんらく】

- ・せぶんぎんこうとの「たぶんかきょうせいかんこうすいしんかん きょうてい」のていけつについて
- ・かわさきしぎかいふんきょういんかい ぼうちようについて

へい いんちよう 「なに しつもんはあるか。(なし) じかい かいぎはがつ 25日の にち にちようび、ごご 2時から、ここ こくさいこうりゅうせんたーでかいさいする。それでは、これで2017年度 だい1回 かいだい にち かいぎを おわりにする。おつかまでした。」